

京都障害者 職業センター



障害のある方の就職の準備から職場定着までの支援や、障害のある方の雇用を検討している、あるいは実際に雇用している事業主の相談に応じている京都障害者職業センター。障害者職業カウンセラーの川越さんにお聞きました。

Q.発達障害のある方はどんな作業が適しますか？

A.複数のことではなく、ひとつずつする作業や、手順が明確な作業が得意な方が多いです。当センターではどんな作業が得意か、職業相談や職業評価を行う中で、適性などをご本人と一緒に整理し、就職活動の進め方の参考にさせていただいています。

Q.苦手なことには、どんなものがありますか？

A.時間、空間、段取りなどで困っているケースが多いです。

「**時間**」というのは、スケジュールの管理や時間配分のことです。たとえば、出かける準備にこだわりがあり、順番どおりでないと出かけられない。時間の配分ができず、結果遅刻してしまうという方もいます。「**空間**」は、どこになにが置いてあるのかが覚えづらいなど。「**段取り**」は、何をすればよいかはわかっている、その手順に迷ってしまう、優先順位がつけられないなどがあります。

Q.逆に、そういった苦手な要素をなくせばよいということですか？

A.そうです。判断することが苦手な特性の方がいました。コンビニでおにぎりとパンのどちらを買おうか、延々悩み続けるような方です。不動産会社に就職されたのですが、やることははっきり決まっている仕事に就いて、**うまく仕事に定着**されました。

不得意だった「判断」をする場面を減らしてもらったことが良かったんですね。

Q.発達障害のある方にふさわしい業務はどうすれば見つかりますか？

A.その人の**特性にあった業務や環境**を見つけることが大切です。そういう意味で、ある程度会社との環境調整が必要な場合が多いです。真面目で誠実、仕事もつきつめてできる人が多い。ご本人の特性を知れば、**適材適所**を見つけられると思います。

そのために、ご本人も自己理解を深めて、**自分の得意、不得意をわかってもらうことが大切です**。そこから、「こう工夫すればできる」という改善がうまれてきます。

Q.現場では、実際、どんな支援が多いですか？

A.大きく二つあります。ひとつは、**仕事の内容についての支援**です。作業でつまずくところについて、ご本人が工夫することと、職場の環境調整が必要なことにわけて支援します。たとえば、一か月前のカレンダーがかかっているだけでも気になって、仕事ができない方もいます。そういった自分のこだわりや自分のルールとのギャップを埋めるために、支援者が調整することが多いです。

もうひとつは、心理的な支援です。疲労やストレスに感じやすい場面等があれば、話をお聞きし、それに対処するための方法を一緒に考えます。たとえば、休憩時間や終業後に相談する時間を設けて聞きとりを行うことも多いです。

Q.発達障害のある方を雇うときの心構えはありますか？

A.発達障害のある方がひっかかるところは、もともと働いている人にも働きづらさの原因になっていることも少なくないはず。そういうところを改善すれば、**みんなが働きやすい職場環境ができていくと思います**。構えて「よし、雇用するぞ!」ではなく、だれもが働きやすい環境をつくるということと考えてもらえばよいと思います。

京都障害者職業センター

〒600-8235 京都市下京区西洞院通塩小路下る東油小路町 803
TEL:075-341-2666 FAX:075-341-2678